

日誌の1ページ



5年家庭科 調理実習「ほうれんそうのおひたし」に挑戦



2年 生活「好きな野菜を選んで育てるよ」



1年 生活「アサガオさん、大きくなあれ」



縦割り顔合わせ



縦割り顔合わせ



1年国語「発表頑張ってるよ」



「まろやかセミナーの落語でたくさん笑ったよ」

校長室より

円山小学校では、引き続き「明るく元気なあいさつ」ができる児童を育てていきたいと考えています。では、我々はなぜ「あいさつ」をするのでしょうか。「あいさつ」をすることで、どんな良いことがあるのでしょうか。例えば、自分があいさつをしたときに、相手から返礼されることで、自分が認められたと感ずることができます。これは、子供の自己肯定感を高めることにつながります。また、自分からあいさつをする習慣が付けば、子供の積極性や主体性を育むことにもつながるでしょう。あいさつは相手を尊重する気持ちを表す行為でもあるので、子供の思いやりや感謝の気持ちを育むことができ、道徳性を高めることができます。ちなみに「あいさつ」の意味を調べてみると・・・

「挨拶」の「挨」は「自分の心を開く」、「拶」は「相手の心に近づく」という意味があるそうです。つまり、あいさつするということは「自分の心を開き、相手を認め、相手の心に近づく」ということになります。あいさつしたのに返事がないときにいやな気分になるのは、相手に自分が認められていないと感ずるからですね。

昨年1年間における子供たちのあいさつについて、教職員で振り返ったところ、「校舎内では明るく元気なあいさつができています。」「下校の時はとても元気よくあいさつしている。」「登校時に旗持ちの方へあいさつできる児童が少ない。」「自分ではあいさつしているつもりでも声が小さいために相手に伝わらないときがある。」「自分から進んであいさつできる子が少ない」等の意見が出されました。

そこでおうちの方にご提案です。心と体のエンジンが温まるように今よりも少しだけ早く起こしてあげるというのはどうでしょうか。起床してから朝食までの時間が少し長いだけで食欲が増し、心と体のエンジンがかかります。また、朝のあいさつに限らず、日々の生活の中でおうちの方があいさつする姿をお子様に見せてあげてください。子供の中には、あいさつする一瞬のタイミングをつかむのが難しいと感ずている子もいるかもしれません。おうちの方が良いモデルとなって、あいさつのタイミングやどんな言葉を言えば良いのかが自然と身に付くかもしれませんね。また、「率先してあいさつをすること」が良いことだということも、きっとお子様に伝わることでしょう。

学校では各学級ごとに「あいさつ」について考えたり啓発したりしています。スマイル委員会や6年生による「あいさつ運動」も行われています。また児童朝礼でも、これまでに「あいさつは、相手も自分も元気モリモリにする魔法の言葉」という話や、「相手の目を見て笑顔であいさつ」「あいさつに相手の名前や一言付け足す二言あいさつ」等の話もしました。「明るく元気なあいさつに適した声の高さ」についてもみんなで考え、「良いあいさつはラの音階のように音が高い」ということにも子供たちは気付いています。

子供たちが自然なあいさつを身に付けることができるよう、引き続き、ご家庭や地域のご協力を是非お願いします。家庭・地域・学校が一体となって、この円山地区のコミュニティーがあいさつでいっぱいになるといいなと思います。そんなことを想像するだけでワクワクしてきます。あいさつを通してつながりが広がることで、ひいては、付加価値としての防犯対策や災害対策にもつながるのではないかと思います。